

第1学年1組 国語科学習指導案

平成30年1月30日（火）2校時

1. 単元名 読書カードを作って、友達に本の紹介しよう

2. 教材名 「たぬきの糸車」 (光村図書 1年下)

3. 単元の目標

○場面の様子について想像を広げ、お話を楽しんで読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

○場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げ、読むことができる。

【読むこと（1）ウ】

○楽しむために本を選んで読むことができる。

【読むこと（1）カ】

○主語と述語の関係に気をつけて読むことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（カ）】

4. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・ 理解・技能
・場面の様子について想像を広げ、お話を楽しんで読もうとしている。	・場面の設定や様子について、たぬきとおかみさんの行動から想像を広げて読んでいる。 ・自分の目的に合った本を楽しんで、選んで読んでいる。	・主語と述語の関係に気をつけて読んでいる。

5. 単元について

(1) 教材について

本教材は、猟師のおかみさんとたぬきの心の交流を、ほのぼのとした雰囲気ユーモラスに描かれた作品である。これまでの学習でも、昔話にいくつか取り組んできた児童にとって、親しみの持てる内容であると思われる。

本教材の特徴として①時間的経過がはっきりしている②登場人物が少ない③会話文が少ない、という3点があげられる。まず、時間経過がはっきりしている。概要を表した初めの部分、たぬきとおかみさんが出会った冬までの場面、春になり再びたぬきとおかみさんが出会った場面と、3つの場面に分かれる。これまでも、時間の経過や、登場人物の変化などから場面の構成を意識してきた児童にとって、この3つの場面は大変わかりやすいと思われる。次に、登場人物が主にたぬきとおかみさんだけである。この時期の1年生にとって、二人の登場人物の言動に着目することは、難しいことではない。「たぬきが、～した。」「おかみさんが、～した。」と、それぞれを主語にした時の述語も考えやすく、1年生として、正しく主語と述語の関係を捉えることができると考える。また、いたずら者ではあるがどこか憎めないたぬきに、児童は愛着を持って、読み進めることが出来るのではないかと考える。そして、児童と同じように、たぬきに親しみとかわいらしさを感じ、畏から逃がしてやったおかみさんの言動に、児童は十分共感ができるのではないと思われる。この時期の児童にとって、親しみをもち、共感しながら読むことが出来る教材に出

会うことは、学習の意欲付けになるであろう。そして、本教材文の中に会話文は二つしか存在しない。このような教材文は、これまでにはなかった。しかし、その会話文の少なさには気づかずに、作品の世界に浸れることがこの教材文の良さだと考える。児童は、直接的な会話文からだけではなく、登場人物の行動から想像力を働かせながら情景を思い浮かべたり、登場人物の気持ちを考えたりしながら、作品にひきつけられていくであろう。

児童が「このお話が好き。」と思える教材文を通して、読む力をつけられることは、学習意欲につながる。作品を楽しみながらも、既習事項を活かし、お話の世界に浸れる本単元は、児童にとって有意義なものであると考える。

(2) 指導について

本時である第一次では、児童と教材文の大切な出会いである。ただ教材文を紹介するのではなく、何のためにこの教材文を学習していくのか理解し、この教材文を使った単元の学習を児童が楽しみにできるような導入にしたい。そこで、まずは教材文ではなく、違う本の読み聞かせを行う。この読み聞かせに使用する本は、誰かが誰かを覗いているという視点に沿って選書する。この選書や、読み聞かせの部分は、司書と一緒に読む。いくつかの本を読むことで、数人の児童は、共通のテーマで読まれていることに気が付くであろう。そこで、誰かが誰かを覗いているという視点で選ばれていること、実際にそのことを表した紹介カードを見せる。これらの活動から、児童は「自分もあんなカードを作りたい」という思いが持てるのではないかと考える。その思いを持てたところで、本教材文「たぬきの糸車」を紹介する。そうすることで、児童は、教材文をただ聞くだけでなく、カードの視点をもって教材文の読み聞かせを聞くことが出来るのではないかと考える。そして、カードを作るために、教材文を使ってどのような学習を進めていくとよいのかを児童と一緒に考え、単元の流れを作っていく。この第一次の学習内容で、しっかり児童の単元への意欲を高め、目的意識をもって学習が進められるようにしたい。

第二次は、実際にたぬきの糸車を読み取って、紹介カードを作っていく。登場人物や、場面の变化などの概要をこれまでの学習経験をもとに確認する。それに加え、登場人物であるおかみさんとたぬきの気持ちを、二人の行動から想像することも取り入れていく。想像した内容は、児童によって違いがある。しかし、この学習は、登場人物の行動から想像する力をつけたい。何でもよいのではなく、必ずその根拠となる登場人物の行動を明らかにして、想像することを意識したい。そのうえでの、個人差は認めあえるようにすることにも留意したい。この想像した内容も紹介カードに書き加える。たぬきの糸車を読み、この教材文の紹介カードを作ってみることで、第三次の学習への意識が児童の中に途切れないようにしたい。

第三次は、児童が教材文以外で、「誰が覗いているか」「誰が覗かれているか」という視点をもって選書をし、その本を友達にカードを使って紹介する学習である。司書とともに、学級にもそのような視点で選んだ本を置いておき、単元の導入時から児童が読めるようにしておく。選書が難しい児童にも、比較的話の内容が理解しやすい本も選んで置き、困っている場合には推奨していく。中には、これまでの学習経験から、自分で本を選んでくる児童もいるであろう。そのような児童の姿も大いに認めていきたい。第二次で学習した内容を活用することで、読書の幅を広げたり、なんとなく読んでいた本を視点をもって読んだり、つけた力を今後の読書生活に生かせるようにしたい。

本単元では、本校の研究の図書館活用の重点の一つである「学習意欲が高まる導入の工夫」を主に検証したい。導入時に教材文以外の図書館の本を活用することで、教材文はもちろん、その他の図書にも興味を持ってほしいと考える。また、教師や司書が選書した本や、自分が読んだことのある本の中から、目的に沿って選ぶことは、今後の児童の情報活用能力を高めることの基礎となるのではないかと考える。単元のゴールや学習への意欲が高まるような導入をすることで、図書を活用する良さや、楽しさを十分に感じられることを期待して、本単元を行う。

6. 単元の指導計画（全8時間 本時1／8時）

次	時	ねらいと学習活動	教師の支援	評価			
				関	読	言	評価規準【方法】
1	1 本 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 単元の学習内容に見通しを持ち、これからの学習に関心を持つことができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきの糸車と共通した点がある本の読み聞かせを行う。 ・単元計画を立て、これからの学習の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司書とともに授業を行い、より本を楽しむ雰囲気作りを行う。 ・紹介カードを見せることで、児童の意欲を高める。 ・児童の思いや言葉から、単元の計画を立てる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・単元の見通しを持ち、楽しんで本を読もうとしている。 <p style="text-align: center;">【発言】</p>
2	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> たぬきの糸車を読んで、大体的内容を捉えることができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきの糸車を音読し、お話の大体をつかむ。 ・感想の交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせと合わせ音読の時間も設ける。 ・意味の分からない言葉などは、丁寧に扱う。 ・どのような感想も認めあえるようにする。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の設定や様子について読むことができる。 <p style="text-align: center;">【発言・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に気をつけて読むことができる。 <p style="text-align: center;">【発言・ノート】</p>
	3 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> たぬきとおかみさんの行動を読み取ることができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきとおかみさんの行動を、場面ごとに時系列で確認していく。 ・カードに覗いている人と、覗かれている人を書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の時間を設ける。 ・時系列で行動を読み取ることで、誰もが内容を把握できるようにする。 ・学習した内容をすぐにカードに書くことで、抵抗を減らすとともに、3次の活動への意識が続くようにする。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動を読むことができる。 <p style="text-align: center;">【発言・ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に気をつけて読むことができる。 <p style="text-align: center;">【発言・ノート・カード】</p>
	5 6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> たぬきとおかみさんの気持ちを、行動から想像することができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきとおかみさんの気持ちを、二人のそれぞれの行動から想像する。 ・想像した気持ちを、カードの吹き出しに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の時間を設ける。 ・児童の想像を大切にしながら、登場人物の行動が根拠となっているかどうかという視点は児童にも意識させる。 ・想像したことから、カードの吹き出し部分に一言言葉を書くことで、3次学習の見通しがさらに持てるようにする。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動から想像を広げて読むことができる。 <p style="text-align: center;">【発言・ノート・カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に気をつけて読むことができる。 <p style="text-align: center;">【発言・ノート・カード】</p>

3	7	<p>紹介カードを作って友達に、本の紹介をし、楽しんで本を読もうとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たぬきの糸車で書いた紹介カードの書き方を参考にできるよう、手順を掲示する。 ・児童がカードを作る様子を観察しながら、困っている児童には一緒に場面の様子を確認し、気持ちを想像できるように会話を通して支援する。 ・紹介された本を読む時間を確保する。また、カードと紹介された本は、その後も教室で誰でも手に取れるようにし、本が楽しめる環境作りを行う。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子について想像を広げ、お話を楽しんで読んでいる。【カード】 ・楽しむために本を選んで読んでいる。 <p style="text-align: center;">【カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係に気をつけて読んでいる。【カード】
	8						

7. 本時の展開 (1 / 8)

(1) 本時のねらい

- ・単元の見通しを持ち、楽しんで本を読もうとしている。 【発言】

(2) 展開

時	学習活動と ・児童の反応	○教師の支援 ☆評価
導入	1、本の読み聞かせを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな話だろう。 ・何だか、似ているお話だな。 	○司書と一緒に、本の世界に誘うように読み聞かせを行う。
20分	2、読み聞かせをした本の紹介カードを見せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・面白そうだな。 ・作ってみたいな。 	○読み聞かせを行った本の紹介カードを見せる。紹介カードには、何が書かれているのか、興味が持てるよう、書かれていることを予想させながらみせる。
展開	3、課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 本のしょうかいカードをつくろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな本で作ろうかな。 ・うまく作れるかな。 	○児童の作りたいという思いを大事に、課題をつかませる。 ○紹介カードを作るためには、学習と練習が必要であることを確認し、教材文へとつなげる。
20分	4、たぬきの糸車の読み聞かせを聞き、単元の学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を確認しよう。 ・いくつに分かれるかな。 ・二人の気持ちも考えたほうがいいな。 	○紹介カードを意識させてから読み着せを行うことで、児童が視点をもって聞けるようにする。 ○単元計画は、既習事項を活かせるよう、これまでの学習を想起させる。 ○二人の気持ちを想像することが出なかった場合は、教師が提示する。

ま と め 5 分	<p>5、本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな本でカードを作ろうかな。 ・たぬきの糸車のカードは作れそうだな。 	<p>○本時で見られた、本を楽しもうとする姿を認め、これからの学習を楽しみにする意欲を高める。</p> <p>○学級に置く本や、これまでの読書経験の中から本を選定することを確認し、読書への意欲付けしておく。</p> <p>☆単元の見通しを持ち、楽しんで本を読もうとしている。【発言】</p>
---------------------------	--	---

(3) 授業の視点

○導入時に教材文以外の本を活用したことは、児童の学習意欲の高まりのために有効であったか。

(4) 本時の評価の観点と評価規準

評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への支援
国語への 関心・意欲・ 態度	<p>単元の学習の見通しを持ち、たぬきの糸車や他の本の内容から、紹介カードの中身の構想を立て始めている。</p>	<p>単元の学習の見通しを持ち、たぬきの糸車や他の本を楽しんで読もうとしている。</p>	<p>たぬきの糸車や、その他の本の中身の大体の登場人物や概要を伝え、一緒に読む。</p>